

# 話 閑 生 書 月 報

monthly newsletter shosei kanwa 第八号 本郷版 2018.3



## 1年の締め括り 書生の報告

書生生活の一年間の活動を振り返る報告会を、二月一八日に約四〇名の参加者とともに開催しました。報告会といっても会議室で肅々と行われる堅苦しいものではなく、参加してくださった方も何か提案やざっくばらんなおしゃべりもできるような参加型のイベントになるよう工夫しました。場所も本郷の老舗旅館「鳳明館本館」大広間。まさに元祖書生がいた時代にトリップしたようなレトロな雰囲気の中の開催です。

「書生がいる街の今」という会の副題の通り、現役の書生たちがどんな活動を行ってきたかを、各自二枚の写真を選び、それにまつわる活動の報告を行いました。一年を通じて街の人とご近所付き合いができるようになった人、自分の興味や強みに書生生活を通じて気づき新しい活動を開始した人、または単にそこに住んでいることがこの街の経済発展に繋がっていると悟った人(笑)、さまざまな感想とともに紹介されました。

続いて今年度は東京大学の都市工学科学生にゲストとして来ていただき、本郷の街で学生と街が関わるための半年におよぶワークショップの発表をしていただき、最後に書生と工学科学生の発表を踏まえて「学生と住民の理想の関わり方って何だろう?」というお題をもとにグループに分かれて意見交換を行いました。「学生だけが頑張るのではなく、地域の方サポートする大人がいて初めて学生と街がうまく繋がっていく」「地域としてはプライバシーの問題もある」というハードルもあれば逆に「若い学生といっしょに時間を過ごすだけでもプラス」という、うれしいというか、甘えてしまいそうな意見もあり、三〇分程の短い時間ながら様々な意見提案が出てきて、来年に繋げるアイデアをいただきました。

本郷の街は書生生活を応援しています。  
一緒に書生を応援してください。大家さん・  
不動産屋さんなどを大募集。ご連絡は下  
記よりどうぞ。

[mating-hongo@nifty.com](mailto:mating-hongo@nifty.com)

# 書生のまち活動日誌

## 「LEGOプログラミング教室開催。」

二月二一日水曜日にツリー・アンド・ツリーさんで子供向けのLEGOプログラミング教室を行いました。僕自身が子供と触れ合うのが好きで、ITに興味があるという事で開催に至りました。そして画面の中だけでなく、実際に物が動いた方が楽しんでもらえるのではないかと思いいプログラミングで動くLEGOを使用することにしました。やってみて感じたことは二つあります。

一つ目は子供は素直であるということ。子供たちはLEGOが動く聞いて、興味津々でたくさん集まってきました。実際に動くところを演習すると「すごい！」と喜んでいました。しかし次に動かした方を説明し始めると、大多数が飽きてどこかへ行ってしまうました(笑)。それでもめげずに残った少数の子供と一緒にLEGOを障害物を避けて部屋で一周させるというミッションに挑みました。失敗を何度も重ねながらついに成功しました。成功するとももちろん盛り上がります。去って行った子供たちがそれに反応して「私にもやらせて！」と言いながらやってきました。とても素直ですね。その感性を大事にしてほしいです。

二つ目は人によって興味を

感じるポイントが違うということです。まずLEGOに興味を持つかどうかで大きく分かれるのですが、さらに積極的に参加していた子供の中でも、コーディングに熱中する子供や、LEGOを動かすのに必死になっている子供など様々でした。こういう部分から大人が子供の適性を見極めて、伸ばしていかなくてはいけないのだろうと感じました。

いろいろ感じたことはありましたが、何よりも子供たちが楽しそうにやっていたこと、そして自分自身も楽しめたことが良かったと思います。(下)

### 書生コラム

#### 卒業の季節。アカデミックガウンの歴史。

「書生」といえば、どんな格好をしている人々を想像するでしょうか。一般的なステレオタイプとしては、明治・大正期のスタンドカラーのシャツに着物を着たりする「書生スタイル」が思い浮かぶかもしれません。和洋折衷を指したハイカラな格好で、当時は実際に流行していたようですね。漫画『さよなら絶望先生』でもこの着こなしですね。現在でもコスプレの対象になっていたりもします。

はてさて、現代の大学生には制服がある方が珍しく、多くの学生は私服で暮らし、私服で大学に通っています。唯一、みんなが同じ格好をする機会が卒業式・学位授与式でしょう。東京大学の場合この式にドレスコードがあるわけではないのですが、多くの学生が「アカデミックガウン」なるものを購入・レンタルして着用しています。紐が垂れた四角い帽子、学位により色が違うガウン、専門により色が違うワッペン。おお、これこそ「知性」と「伝

統」の証……！ イギリスの制服を参考にしているそうで、オックスフォード大学およびケンブリッジ大学からの流れを汲むそうです。さて、では日本でこのガウン、いつから着られているのでしょうか。調べてみると、早稲田大学では一九一三年から着られているそう。一方、東京大学でアカデミックガウンが制定され導入されたのは二〇〇四年三月の卒業式から。え、二〇〇四年？なんとそんな新しいのか……！

本郷の春、卒業式にみんなガウンを着ているのもここ十五年ほどの伝統なのです。将来はまた変わっていくのでしょうか。(三)

### のぞきみ・書生生活

FILE 8：居酒屋と化した六畳一間の話



業務用ビールサーバー

事の始まりは、「美味しいビールを飲みたい」という家主の一言だった。その言葉を聞き届けた後輩が、即座にネット通販で生ビールサーバー(業務用)を注文。明るる日、六畳一間の我が下宿に、その銀色の箱が届いた。樽を繋げばいつでもキメ細かな泡とともに生ビール。家に帰ると生ビール。寝る前には生ビール。そんなことをやっているうちにいつしか居酒屋と呼ばれるようになったその六畳一間には連日赤提灯が灯り、知り合いに知り合いの知り合いが集い続け、ついにはNHKの取材が来る羽目に。家主の寝る場所はいっそなくなったという。(三)

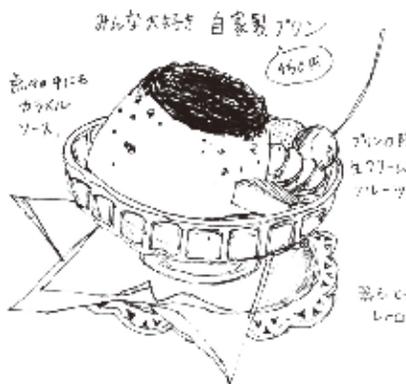
私はいつからか、古くて渋いものが好きになった。



#### 書生のイキツケ 「名曲・珈琲麦」

今回紹介する「名曲・珈琲麦」は、私のそんな好みを叶える昭和な匂いたっぷりの純喫茶である。本郷三丁目駅を出て、本郷通りへ向かう細い道を歩いていくと、右手に書きさつぽい「麦」の文字の看板が見える。地下への階段を降りていくと、まるでタイムスリップしたかのような別世界。あちこちの壁に飾られる西洋絵画、赤い色の絨毯にえんじ色の背もたれ付きソファ、そして店内に流れるクラシック音楽。初めてここを訪れた時、入口付近のモディリアーニの絵を見て胸騒ぎがしたのを覚えている。

私の一番のお気に入り、自家製プリン(四五〇円)。レトロな脚付きの器に乗って出てくるクラシックなビジュアルに思わずニヤリ。プリンなのに菌ごたえがあるかのようなどっしりした食感。一度食べたならまたすぐにでも食べたくなってしまふ、懐かしくてほっこりした美味しさ。こういう昭和の匂いが漂う「麦」のような喫茶店が、これからは変わらずみんなに愛され続けてほしい。(馬)



日本料理 名曲・珈琲麦  
住所：文京区本郷 2-39-5 B1  
営業時間：月～金 7:00-20:00  
土日祝 7:00-19:00